

四日市港ポートビルから富田界限へ

四日市に会議で出かけたおりに、JR「富田浜駅」で降りてポートビルに向かった。名四国道（国道23号の豊明市から四日市市までの通称）の脇を歩いたが、猛スピードで走り抜ける大型ダンプやトラックに恐怖を感じた。

四日市港ポートビルは開港100周年を記念して建てられたもので、四日市港管理組合や企業などが入っている。「うみてらす14」に上がると、地上90mからの眺望が広がる。前からコンビナートや四日市全体を見たかったので、曇りがちの天気であったが、なんとか目的を果たすことができた。



写真は「第3コンビナート」の工場とコンテナ埠頭である。こうして上から眺めると、コンビナートが海岸線の多くを占拠していること、その規模の大きさを実感できた。まだ暑かったが、ポートビルから富田のほうに向かって歩いた。名四国道のわきに、大きな松が並んだ静かな道があった。埋め立て前は、ここが海岸線であったことがわかる。富田界限には古い町並みが残っていた。歩いていても落ち着いた感じであった。



四日市はもともと海と山、自然や温泉に恵まれた景勝の地であったが、戦後のコンビナート開発によって

海岸や水辺環境の大半が工場や港湾施設に占有されてしまった。四日市再生にとって

「水都」再生の意義をあらためて考えさせられた。

(2007年9月8日 記)